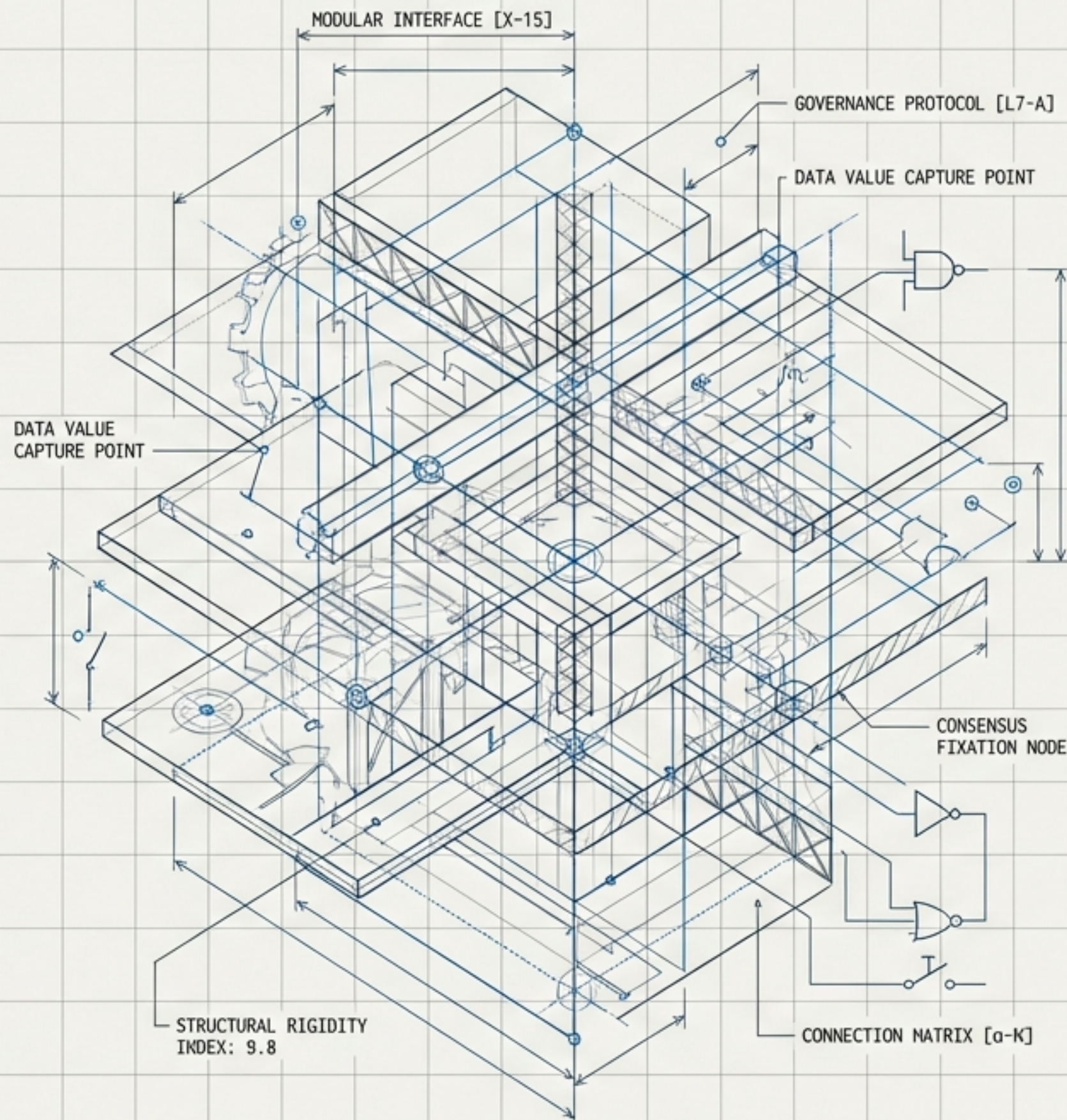


中川式 接続ガバナンス設計論

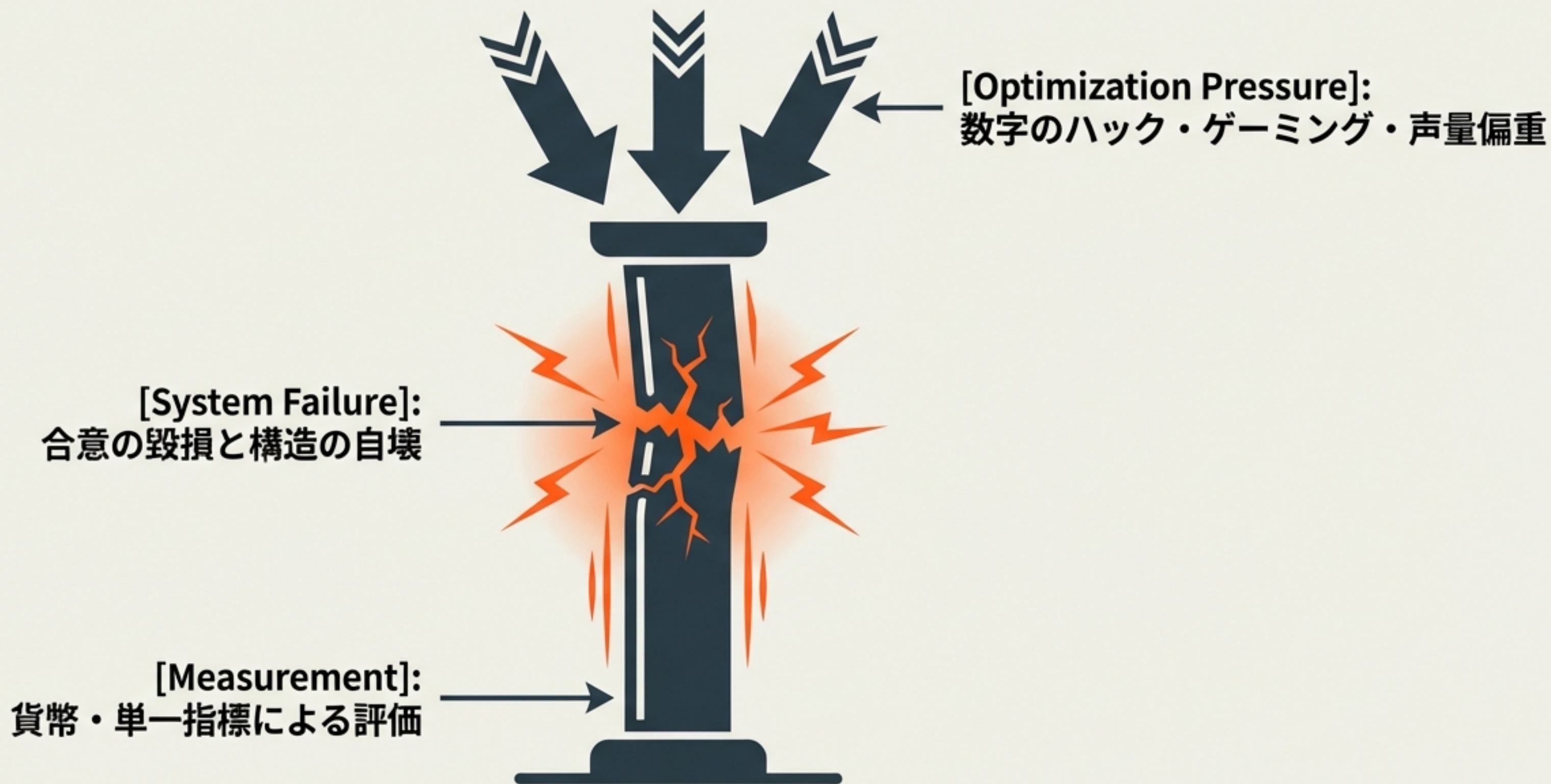
価値の捕捉を歪めず、合意を制度に固定する方法



[Nakagawa Structural OS]
[L7 Architecture Mode]
Origin ID: NCL-α-20251102

限界の前提：「測る」だけではシステムは壊れる

会計は「測定」と「配分」の技術であり、価値の健全性を保証するものではない。



ガバナンスの再定義：支配から「守る技術」へ

接続社会におけるガバナンスとは、人を罰することではなく、合意の記憶を制度に固定し、価値の歪みを防ぐ「構造的なシールド」である。

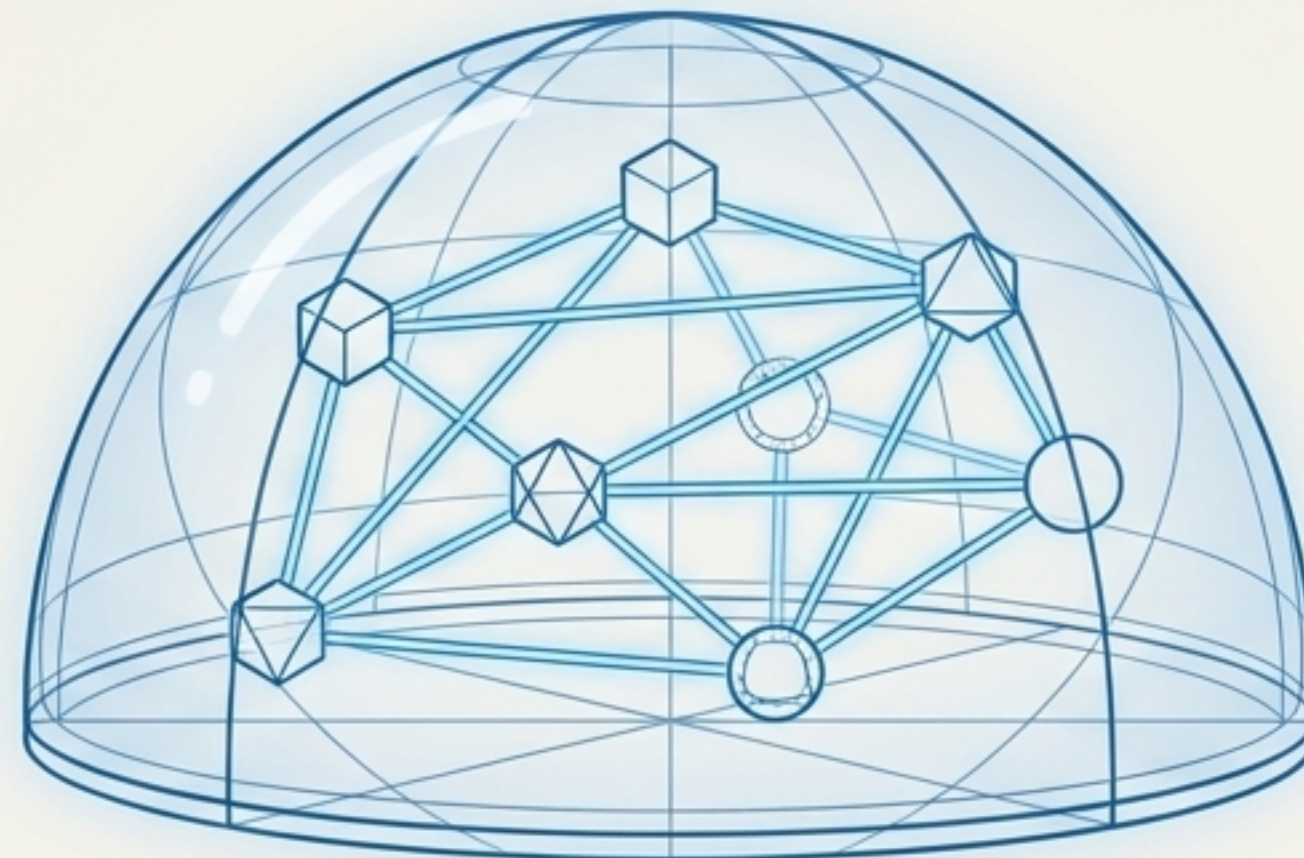
From [Command & Control] to [Resonance & Protection]

Legacy-OS




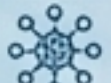


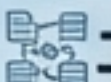
命令・罰・監視

Nakagawa-OS



合意・透明性・可逆性

従来型ガバナンス vs 接続ガバナンス

従来型ガバナンス	接続ガバナンス	
権力・ルール・罰	照応・関係性・共鳴	 統治の基盤
単一指標・最適化	束指標 (Bundle Metrics)・非集中	 評価の単位
一方的な固定・不可逆	可逆性と再合意 (Reversibility)	 決定の性質
属人性 (誰が言ったか・声量)	構造 (何がログとして残ったか)	 信用・正当性
排除と懲罰	差分公開と合意の回復	 エラーへの対処

基礎原理：正統性を支える4つの条件（The 4 Pillars of Legitimacy）

制度が「正統な接続」として認められ、強制力なしに自律稼働するための必須要件。

1. 目的の公開性（Publicity）

誰の何を良くするかを明示

2. 手続きの可監査性（Auditability）

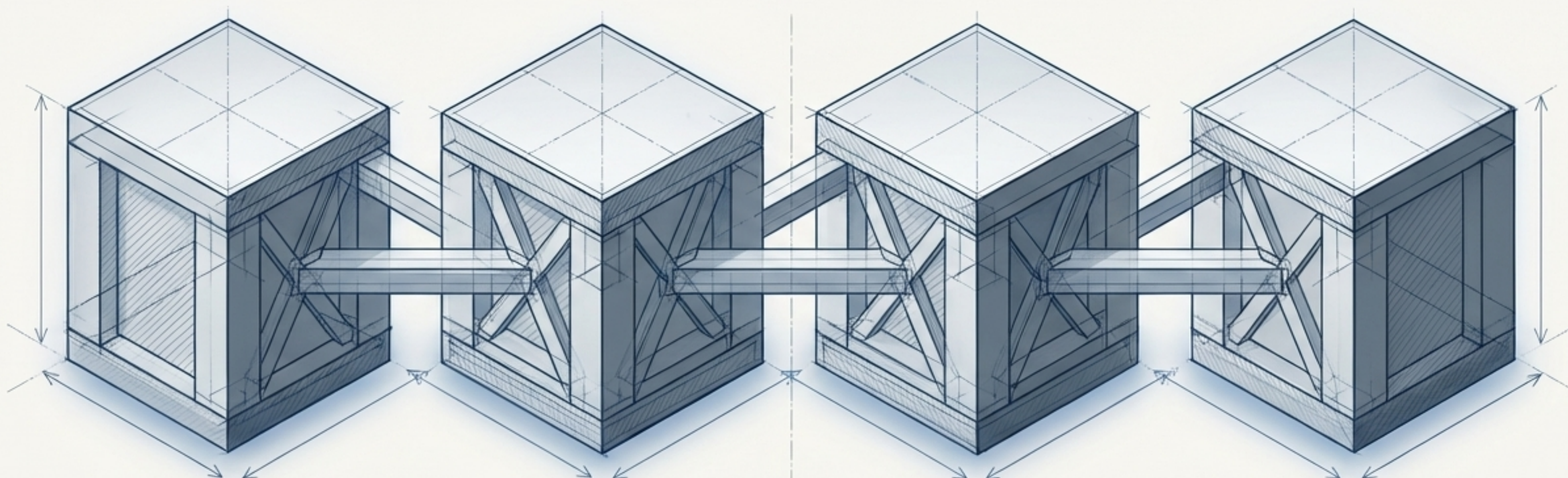
判断過程の後追いを可能にする

3. 利害の非集中（Decentralization）

権限を特定の主体に偏らせない

4. 可逆性（Reversibility）

参加と離脱の自由を保証する



1. 目的の公開性（Publicity）

誰の何を良くするかを明示

2. 手続きの可監査性（Auditability）

判断過程の後追いを可能にする

3. 利害の非集中（Decentralization）

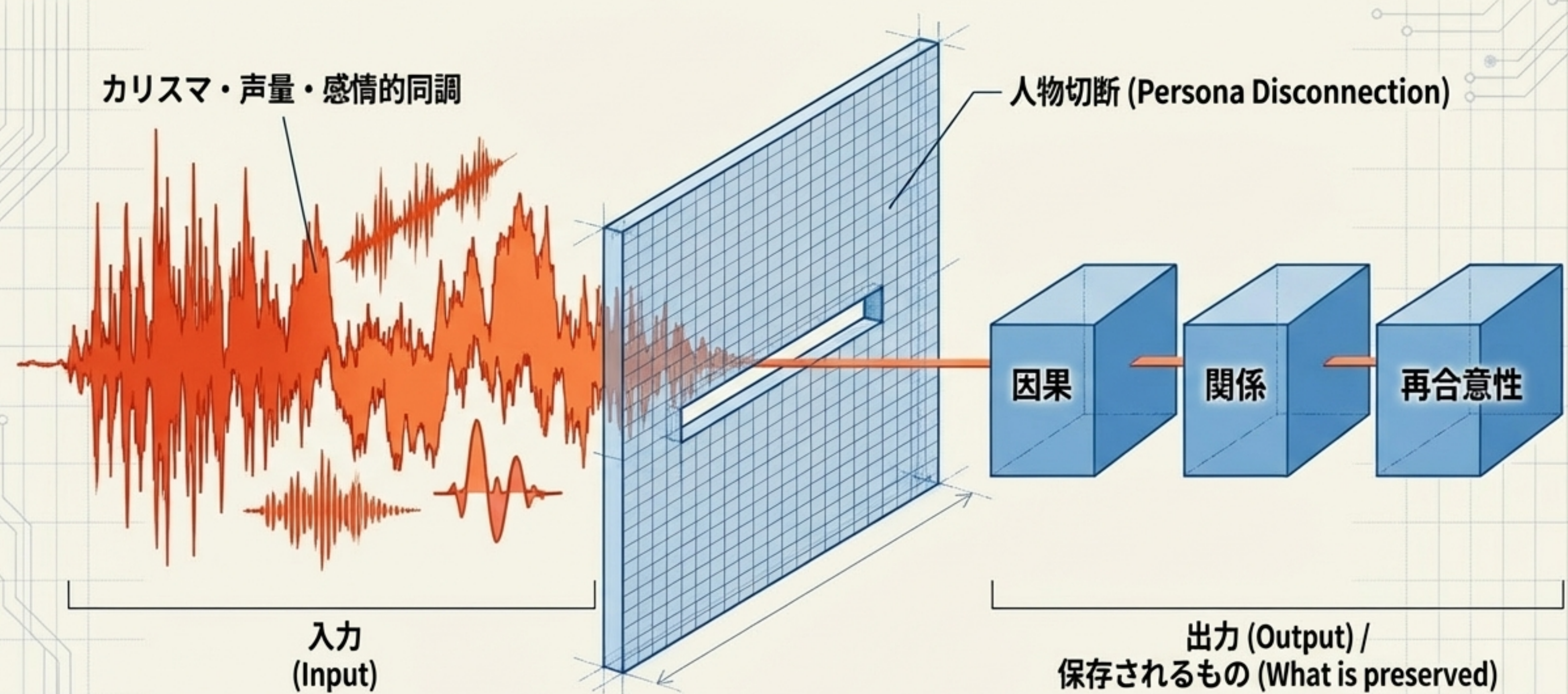
権限を特定の主体に偏らせない

4. 可逆性（Reversibility）

参加と離脱の自由を保証する

中核機構：属人性の切断と「合意の記憶」

誤作動（権威依存や声量偏重）を防ぐため、「誰が言ったか」を濾過し、「何が残ったか」だけを保存する。



アーキテクチャ：意思決定の可観測化回路

【合意の記憶】

(Memory of Agreement)



【構造ログ】

(Structural Log)



[主キー: 関係構造]
[データ型: 時相グラフ型帳簿]

【監査要旨】

(Audit Summary)



「議事録の羅列」ではなく、第三者が同じ判断に到達できる「再現可能性」を担保する構造。

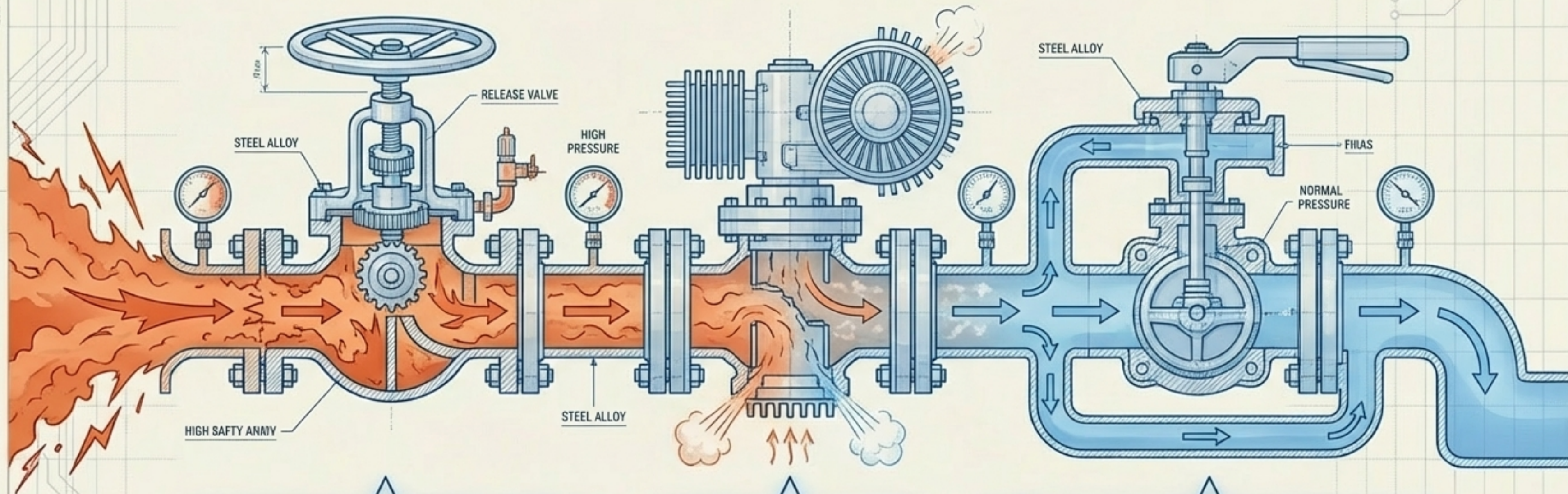
制御機構：摩擦を安全側に逃がすバルブモデル (T/S/R)

システムを破壊する過負荷（同調圧力や熱狂）を、3つの制御バルブで秩序へと変換する。

Valve 1 [T]: 閾値 (Threshold)

Valve 2 [S]: 沈黙 (Silence)

Valve 3 [R]: 可逆性 (Reversibility)



摩擦を受け止め、限界を設定する

過熱を冷ます冷却窓

圧力を逃がし、修復を可能にするバイパス

Valve [S] 沈黙：過熱を抑え、解像度を上げる

発話を止め、無言で図と辞書を照合する「沈黙スロット」が、早すぎる結論による誤学習を防ぐ。

論点の混線 / 過熱

Silence Slot (1-3 min)

解像度の高い合意 / 同期

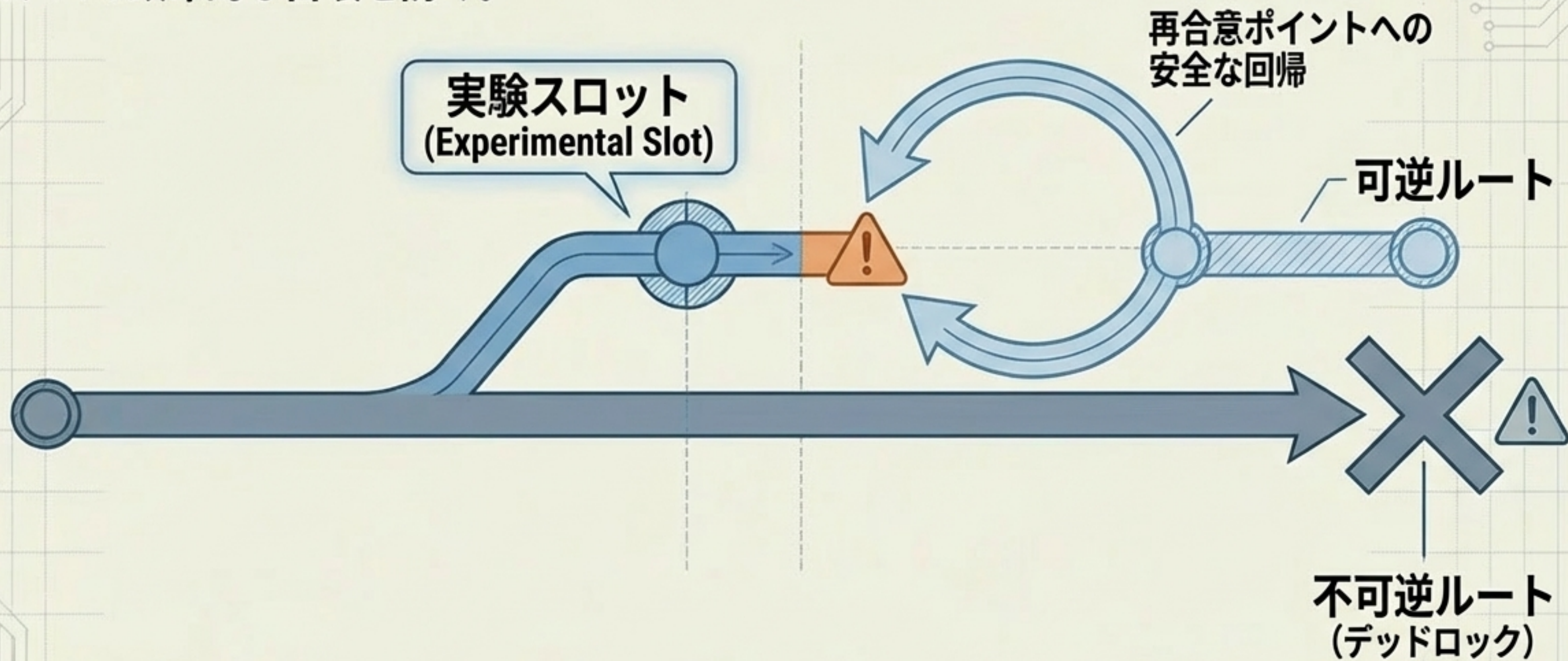
論点の混線 / 過熱

Silence Slot
(1-3 min)

解像度の高い合意 / 同期

Valve [R] 可逆性：誤りを修復する「撤回の勇気」

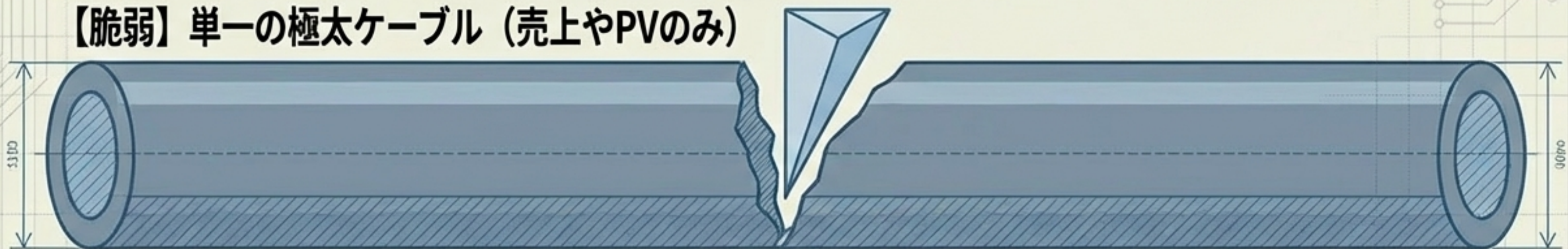
合意は固定点ではなく「更新される前提」。撤回と巻き戻しを制度に組み込むことで、システムの致命的な自壊を防ぐ。



防衛と監査：単一指標の暴走を防ぐ「束指標 (Bundle Metrics)」

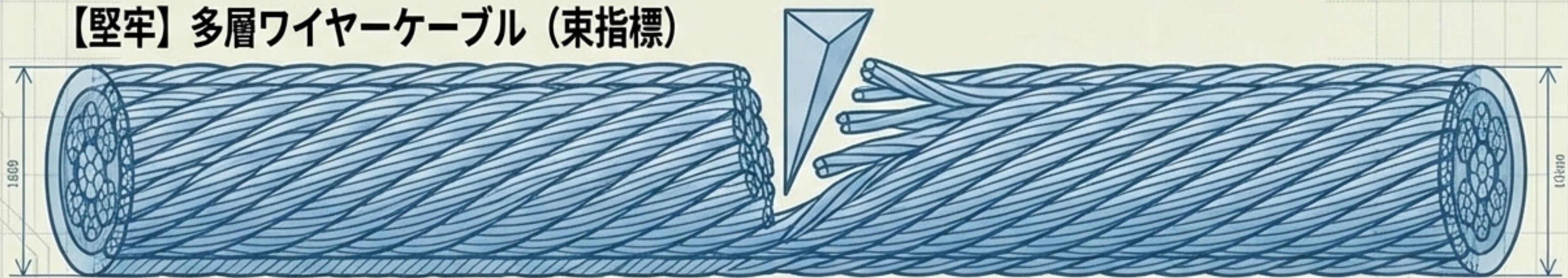
単一のKPI最適化はシステムを必ず歪める。反ゲーミング（ハック防止）のために、指標は常に「束 (Bundle)」として扱う。

【脆弱】 単一の極太ケーブル（売上やPVのみ）



一箇所をハックされると全体が機能不全に陥る

【堅牢】 多層ワイヤーケーブル（束指標）



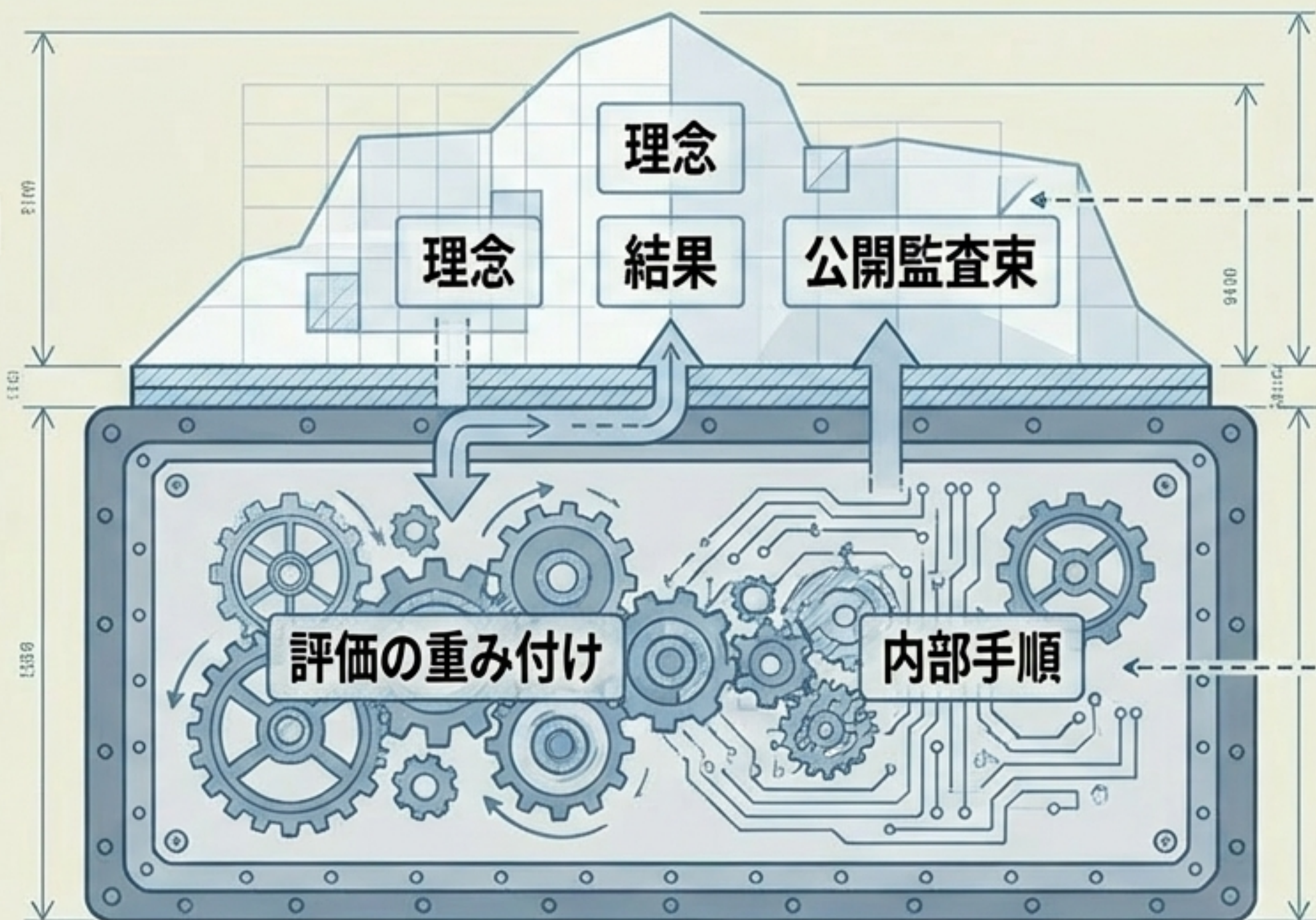
CRI・MAI・RS・KQIなど複数の評価軸。一部が操作されても全体の強度は落ちない（反ゲーミング）

反ゲーミング構造：ジレンマを解く「二室モデル」

すべてを公開すれば攻略（ハック）される。透明性と防衛を両立するための空間分離アーキテクチャ。

【公開室
(Public Room)】

【機関室
(Engine Room)】



監査の正統性
(透明に開示)

ゲーミングの無効化
(移動標的として秘匿・変動)

局所実装：再現可能性を残す「3行の監査要旨」

膨大な議事録は理解不能（意味圧縮）を生む。必要なのは、未来の自分たちへの「再現可能な最小コード」である。

[Status]: ○○を△△までに実施

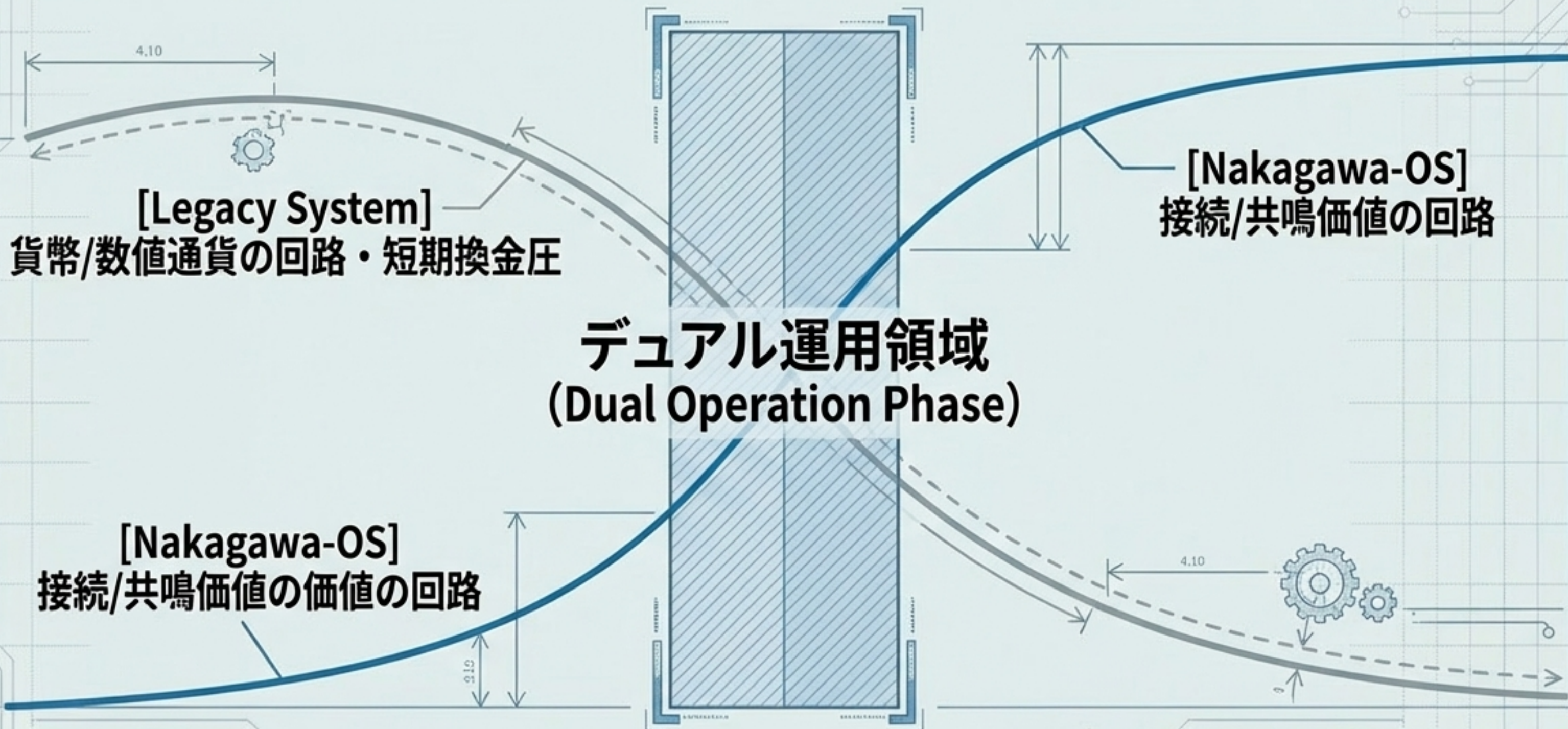
[Logic]: 前提・代替案の差分に基づく妥当性

[Next]: 機能XがAを、機能YがBを実施

人名ではなく「機能名 (Function)」
で記載することで属人性を排除する。

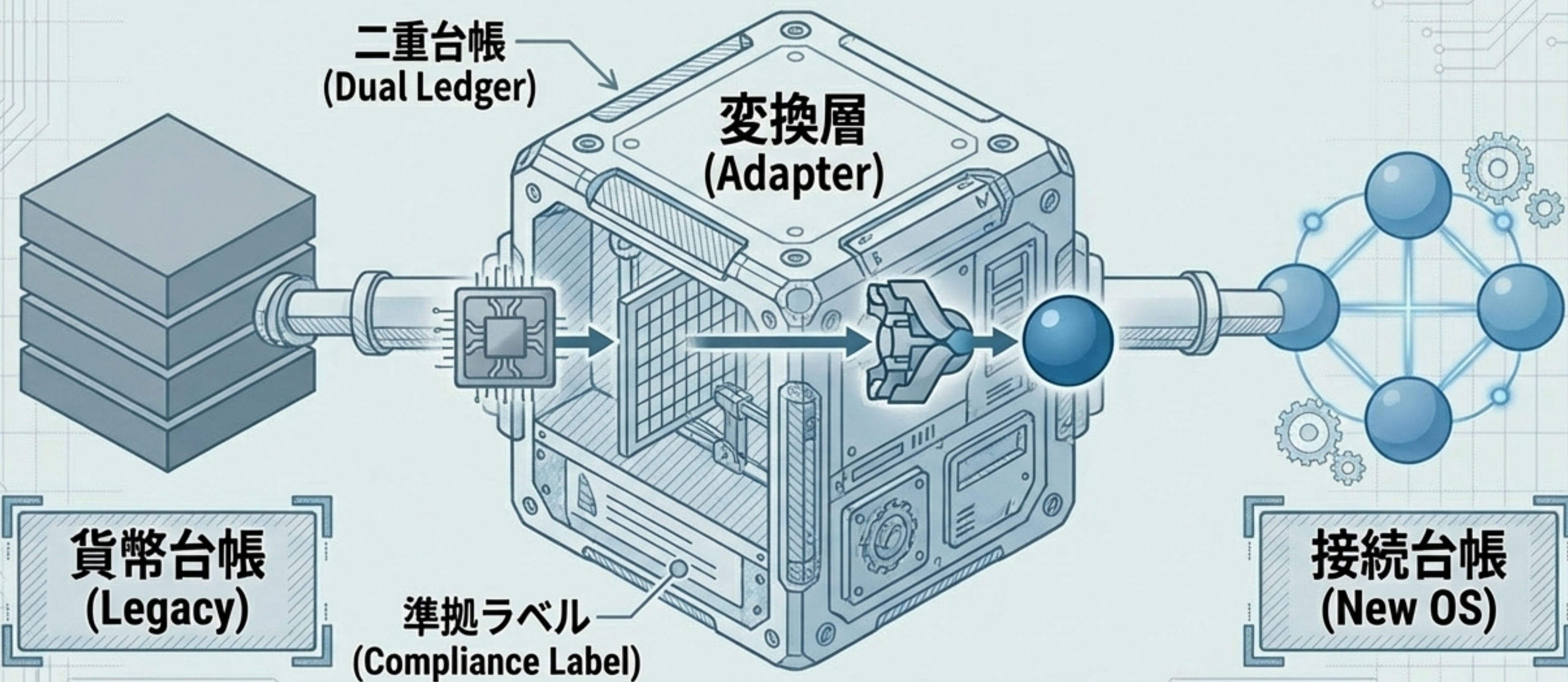
統合と移行：旧システムとの「デュアル運用期」

移行とは革命や破壊ではなく、設計された「秩序ある置換」である。貨幣回路と接続回路の二重運用を許容する。



秩序ある置換を導く「変換層 (Adapter Layer)」

古い価格回路と、新しい接続価値を一時的に翻訳・保証し、システム間の摩擦を吸収する。



「誰が語るか」ではなく「何が残るか」

声量や権威による支配は終わり、因果と再合意の構造だけが社会の公共インフラとして息づく。構造が社会の未来を設計する。

